

(2) 営農圃場における対策効果の確認例⁶⁾

1 2.5×10.0 5°

JI RCAS

BSC

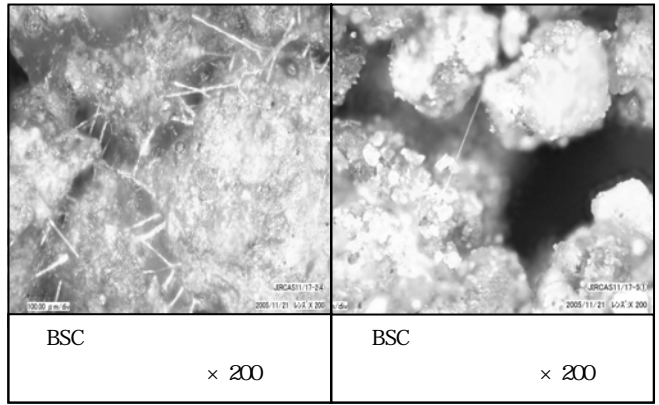


図3 BSCの形成状況(養生後21日経過時)

3

BSC

1/20 1/10

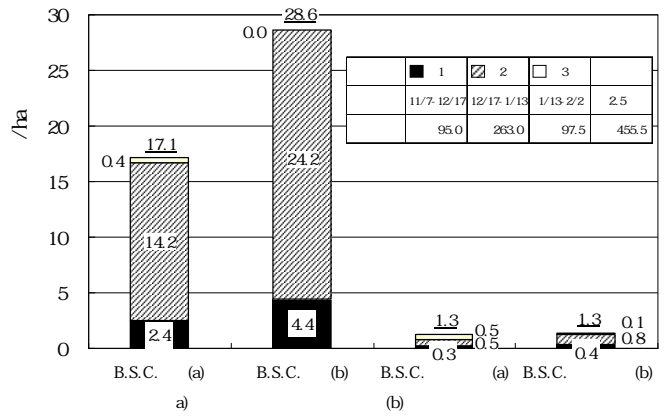


図4 試験圃場における流出土砂量等観測結果

(3) 土木工事への適用にかかる検討例⁷⁾

BSC

19

3 1×1m

BSC

20g

BSC

BSC

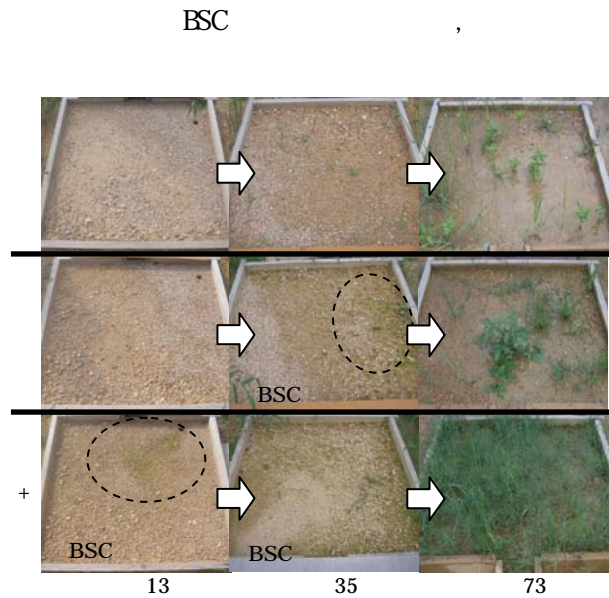


図5 方形枠の状況(平成19年7月~10月)

BSC

3. 溪岸崩壊地における試験施工

(1) 試験施工の概要

BSC

OST 1

24 5

OST

SS

5 3166.9mg/L SS

3.7 24 1mg/L

9

26 2 17 BSC

25

20g 36g 26 6

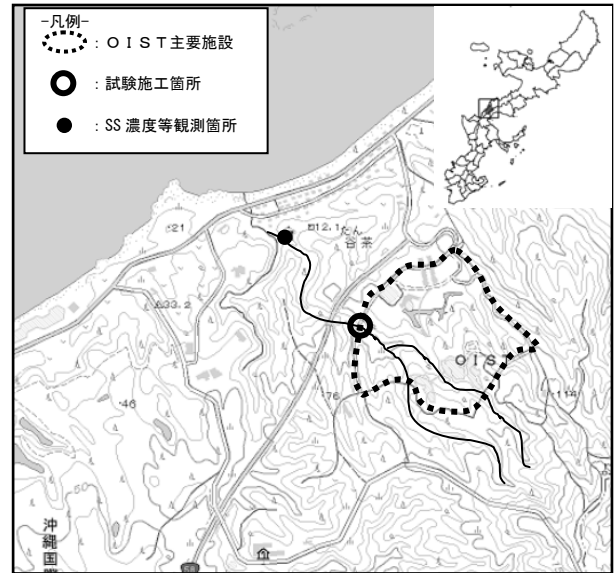


図6 試験施工箇所の概要

表1 崩壊箇所下流での赤土等観測結果概要

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月
SS 濃度	月最大 (mg/L)	424.3	<u>3166.9</u>	434.1	39.7	23.6	74.4
	発生日雨量 (mm/日)	30.5	<u>95.5</u>	45.0	3.5	6.0	16.5
	月平均 (mg/L)	6.5	24.1	7.6	3.8	4.7	5.8

注1: 崩壊の発生は5月11日と推察される(表中下線部)。

注2: 平成25年4月～9月は当該箇所上流域で特に工事等は実施されておらず、当該崩壊箇所以外の赤土等の発生源は特に見られなかった。

(2) 試験施工後の観測結果

2 3

BSC

24

BSC



平成26年2月17日(散布日) 平成26年3月24日(35日後) 平成26年5月19日(91日後)

図7 藻株等散布後の状況(1号橋上から撮影)



平成 26 年 2 月 17 日（散布日）



平成 26 年 3 月 4 日（15 日後）



平成 26 年 3 月 24 日（35 日後）



平成 26 年 4 月 14 日（56 日後）



平成 26 年 5 月 7 日（79 日後）



平成 26 年 5 月 19 日（91 日後）

図 8 藻株等散布後の状況例（散布箇所近景）



散布区



無散布区



平成 26 年 2 月 17 日（散布日）

平成 26 年 3 月 24 日（35 日後）

平成 26 年 5 月 19 日（91 日後）

図 9 藻株等の散布の有無による状況比較（上段：散布区、下段：無散布区）

(3) 考察

BSC

, BSC

BSC

BSC

BSC

BSC

, BSC

BSC

4. おわりに

BSC

BSC

BSC

QST

- 1 , , , , 18 , , p17-20, 2006
- 2 8 pp. 444-445 2006 1
- 3 S. Tagata, J. Kurihara, T. Yanakoshi, S. Shinonura, M. Tomisaka, Y. Kobayashi: Experimental Study on Erosion Control Using Natural Soil Microorganisms, 14th International Soil Conservation Organization Conference, Morocco, pp. 166-167, 2006
- 4 () 59 7-157 pp. 313-314 2004
- 5 P067 pp. 376-377 2004 1
- 6 -37 2011 79 1 p. 36
- 7 2011 1 session 4, p. 37-38